

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------------------|--------------|------------------|--|-------|----|--------|---|------|------|------------|---|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 青森歯科医療専門学校 | | 昭和47年12月18日 | 三原 睦子 | | 〒038-0031 青森県青森市大字三内字稲元122番地2号 (電話) 017-782-3040 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人三和会 | | 昭和45年12月1日 | 今井 将貴 | | 〒038-0031 青森県青森市大字三内字稲元122番地2号 (電話) 017-782-3040 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 医療 | 医療専門課程 | 歯科技工士科 | | | 平成6年文部科学省 告示第146号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 学校教育法及び歯科技工士法に基づき、歯科技工士として必要な専門知識を施し、学識と教養を高め、人格の向上を計り、歯科医療の発展向上に寄与することを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成8年1月12日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 昼間 | 73 | 19 | 0 | 54 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 70人 | | 23人 | 0人 | 3人 | 11人 | 14人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前学期:4月1日～9月30日 ■後学期:10月1日～3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日 ■夏季:7月24日～8月22日 ■冬季:12月12日～1月11日 ■学年末:3月31日 | | | 卒業・進級条件 | 所定の課程を履修し、科目試験における筆答試験及び実地試験の合格基準100点満点の60点以上、当該学年の総授業日数3分の2以上の出席状況を評定の上、教員会の議を経て校長が行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 疾病等による長期欠席者へは補修・補講による個人指導を行い、欠席が目立つ学生には、保護者との連絡を緊密にすると共に、個人面談や三者面談の実施、学年担任や臨床心理士によるスクールカウンセリングを行っている。 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 郊外研修、学校祭、歯科医師会主催研修会への参加 ■サークル活動: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 歯科診療所/歯科技工所 ■就職指導内容 就職講話(就職について、求人票の見方、履歴書の書き方、会社見学について)、三者面談、ジョブカフェ青森就職セミナー(エントリーシートの書き方、模擬面接)、個別相談 ■卒業生数 12 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 92 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・国家試験再受験者: 2人 (令和 2 年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) | | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歯科技工士 国家試験</td> <td>②</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 歯科技工士 国家試験 | ② | 12人 | 11人 | | | | | | | | | | | | |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歯科技工士 国家試験 | ② | 12人 | 11人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 0 名 令和2年4月1日時点において、在学者20名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者19名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 低学力の学生に対する補修・補講等の学習支援、保護者との連携強化 | | | ■中退率 0 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度 入学生および在校生の学業成績優秀者を特待生とし、授業料の一部を免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.aomori-dental.ac.jp | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 歯科技工士の必要な実践的且つ専門的な能力及び臨床現場において即戦力となる人材を育成するため、最新の歯科技工に関する技術を持つ企業等との密接な連携を深め2年生過程のカリキュラムや実習について、企業等の担当者と学校担当教員により、教育課程の内容の充実と改善に向けた協議を行い、教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は本校と歯科医療分野の団体や関係企業等による企業関係者等外部役員からなり、教務規定において、「教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等も含む。)にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的且つ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない。」と定めており、組織図の中でも教育課程編成委員会を位置づけている。教育課程編成委員会による意見・提言等は、該当学科内会議および全教職員による職員会議の協議検討を経て、教育課程編成に活用するための方針や実施内容等決定を行うこととしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-----------------------------|------------------------|----|
| 村上公克 | (一社)青森市歯科医師会 副会長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | ① |
| 櫻田聡彦 | (一社)青森市歯科医師会 桜田歯科医院 院長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | ① |
| 山本明義 | (一社)青森市歯科医師会 やまもと歯科 院長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | ① |
| 市川真弓 | (一社)青森市歯科医師会 いちかわ歯科クリニック 院長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | ① |
| 福田祐嗣 | (有)北日本歯科技工所 所長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | ③ |
| 相馬由紀子 | 北畠歯科医院 歯科衛生士 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | ③ |
| 今井将貴 | 青森歯科医療専門学校 理事長・事務局長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | |
| 三原睦子 | 青森歯科医療専門学校 校長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | |
| 青木正義 | 青森歯科医療専門学校 副校長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | |
| 小笠原郁江 | 青森歯科医療専門学校 副校長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | |
| 今井俊也 | 青森歯科医療専門学校 歯科技工士科 教務主任 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | |
| 西村瞳 | 青森歯科医療専門学校 歯科衛生士科 教務主任 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | |

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)**

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月13日 13:30～15:30

第2回 令和3年 3月14日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

歯科医療現場において求められる人材について、現場では実技や知識のスキル以上に患者にやさしく接しコミュニケーション能力の高い人材が求められることから、学校教育において学生に認識させる教育を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

歯科医療業界では常に新しい技術・知識の習得が必要不可欠であり、企業と連携した実習・演習を通じ、最先端の技術・知識の習得を目的とし、学生に体験機会を与えるとともに、基本の重要性も認識させる。歯科技工実習に関する実践的な授業を行うため、企業から当該企業に所属する歯科技工士を講師として派遣してもらい、校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力を得られる企業を選定している。また校内の実習にあたり、企業から課題を提示してもらい、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

歯科技工実習に関する授業科目の担当教員と企業等の講師が実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、学生の学修成果の達成度評価指標等について定める。企業等の講師が評価や専門性の高い技術的な指導等を行い、担当教員と企業等の講師が連携しながら授業運営を行う。実習終了時には企業等の講師による学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

| (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 | | |
|-------------------------------------|---|---------|
| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
| 歯科技工実習(歯冠修復技工学) | 歯科用CAD/CAMシステムの計測器・CADソフト・CAMソフト・加工機の概要について習得する。臨床模型を用いて陶材焼付金属冠を製作し陶材築盛から形態修正・完成までの各工程において臨床上必要な知識及び技術を習得する。臨床模型を用いてハイブリッド型レジンインレーを製作しレジン築盛から形態修正・完成までの各工程において臨床上必要な知識及び技術を習得する。 | 株式会社 松風 |
| 歯科技工実習(有床義歯技工学)・有床義歯技工学 | S-WAVEスキャナーで作業用模型を3Dスキャンし、3D CADソフトウェアでスキャンしたデータを基に補綴装置をデザインする。スキャナーで作成したデザインデータから、加工データの作成を行うCAMソフトウェアによりミリングマシンで切削加工して補綴装置を製作する基本操作を習得する。人工歯の形態・色調についてと理論的解剖学的形態の人工歯を用いた全部床義歯人工歯排列の知識及び技術を習得する。 | 株式会社 松風 |
| 歯冠修復技工学 | 臨床模型を用いて光重合型硬質レジン前装冠を製作しレジン築盛から形態修正・完成までの各工程において臨床上必要な知識及び技術を習得する。 | 株式会社 松風 |
| 歯冠修復技工学 | 臨床模型を用いてホワイトニングトレーを製作しシート圧接から形態修正・完成までの各工程において臨床上必要な知識及び技術を習得する。 | 株式会社 松風 |
| 歯科技工実習 | 臨床模型を用いてマウスガードを製作しシート圧接から形態修正・完成までの各工程において臨床上必要な知識及び技術を習得する。 | 株式会社 松風 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 専門領域での知識、技術及び人間性を習得した質の高い歯科技工士を養成するためには、教育に携わる教員の資質向上を図り、歯科技工士教育の充実発展に寄与しなければならない。本校では研修等に係る諸規定に基づき実施しており、全国歯科技工士教育協議会の教員研修会や日本歯科技工士会講演会等に積極的に出席し、実績を積み、教授能力の高い専任教員の育成、学生教育に必要な知識、技術を研鑽させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「」(連携企業等：)
 期間：令和〇年〇月〇日() 対象：
 内容：

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「WITHコロナのコミュニケーションと働き方の変化」(連携企業等：青森ファイナンシャルアカデミー)
 期間：令和3年3月19日(金) 対象：1名 今井俊也
 内容：会社が今、若者に求めている能力として何があるか、自己の再評価を行い各校での対策、どのような授業を行っているかについて

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「」(連携企業等：)
 期間：令和〇年〇月〇日() 対象：
 内容：

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「」(連携企業等：)
 期間：令和〇年〇月〇日() 対象：
 内容：

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

より良い学校運営を実現するために、学内のみならず学校運営に関わりのある企業や学校関係者から、学校運営に関する様々な意見や提案を頂き、学校運営の改善に役立てることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|-------------|--|
| (1) 教育理念・目標 | (1)-1学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (1)-2学校における職業教育の特色はなにか (1)-3社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を抱いているか (1)-4学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか (1)-5各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか |
| (2) 学校運営 | (2)-1目的等に沿った運営方針が策定されているか (2)-2運営方針に沿った事業計画が策定されているか (2)-3運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか (2)-4人事、給与に関する規定等は整備されているか (2)-5教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか (2)-6業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか (2)-7教育活動等に関する情報公開が適切になされているか (2)-8情報システム化等による業務の効率化が図られているか |
| (3) 教育活動 | (3)-1教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか (3)-2教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか (3)-3学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか (3)-4キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか (3)-5関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか (3)-6関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか (3)-7授業評価の実施・評価体制はあるか (3)-8職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか (3)-9成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか (3)-10資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか (3)-11人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか (3)-12関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか (3)-13関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか (3)-14職員の能力開発のための研修等が行われているか |
| (4) 学修成果 | (4)-1就職率の向上が図られているか (4)-2資格取得率の向上が図られているか (4)-3退学率の低減が図られているか (4)-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか (4)-5卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか |

| | |
|----------------|--|
| (5) 学生支援 | (5)-1進路・就職に関する支援体制は整備されているか (5)-2学生相談に関する体制は整備されているか (5)-3学生に対する経済的な支援体制は整備されているか (5)-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか (5)-5課外活動に対する支援体制は整備されているか (5)-6学生の生活環境への支援は行われているか (5)-7保護者と適切に連携しているか (5)-8卒業生への支援体制はあるか (5)-9社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか (5)-10高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか |
| (6) 教育環境 | (6)-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか (6)-2学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか (6)-3防災に対する体制は整備されているか |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7)-1学生募集活動は、適正に行われているか (7)-2学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか (7)-3学納金は妥当なものとなっているか |
| (8) 財務 | (8)-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか (8)-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか (8)-3財務について会計監査が適正に行われているか (8)-4財務情報公開の体制整備はできているか |
| (9) 法令等の遵守 | (9)-1法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか (9)-2個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか (9)-3自己評価の実施と問題点の改善を行っているか (9)-4自己評価結果を公開しているか |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10)-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか (10)-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか (10)-3地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか |
| (11) 国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

新型コロナウイルス感染症の影響で求人件数が減少しており、例年より地元就職希望が多かったが、オンラインなどで対応した。学生募集については対面と並行してオンラインキャンパスを実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-----------------------------|------------------------|-------|
| 村上公克 | (一社)青森市歯科医師会 副会長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 櫻田聡彦 | (一社)青森市歯科医師会 桜田歯科医院 院長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 山本明義 | (一社)青森市歯科医師会 やまもと歯科 院長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 市川真弓 | (一社)青森市歯科医師会 いちかわ歯科クリニック 院長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 福田祐嗣 | (有)北日本歯科技工所 所長 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 卒業生 |
| 相馬由紀子 | 北畠歯科医院 歯科衛生士 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 卒業生 |
| 佐藤 文 | 青森歯科医療専門学校 歯科衛生士科 同窓会 | 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年) | 地域住民 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL:<http://www.aomori-dental.ac.jp>

公表時期: 令和2年4月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より開かれた学校運営や現在の教育活動を企業等の学校関係者に理解を深めてもらうために、学校のホームページ等において情報を公開する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|-------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 学校の概要、教育理念、教育目標 |
| (2) 各学科等の教育 | 学科紹介、カリキュラム |
| (3) 教職員 | 教員、講師、教職員数 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 就職支援 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、職業説明・体験 |
| (6) 学生の生活支援 | 学生支援 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 学納金、日本学生支援機構 |
| (8) 学校の財務 | 財務諸表 |
| (9) 学校評価 | 自己点検評価・学校関係者評価報告書 |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL:<http://www.aomori-dental.ac.jp>

授業科目等の概要

| (〇〇専門課程〇〇学科) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|----|------|------|------------|--|----------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 1 | ○ | | | 外国語 | 歯科英語を習得することで、英語で語られることの多い歯科専門用語の理解を図る。 | 1前 2前 | 36 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| 2 | ○ | | | 造形美術概論 | 歯科技工に必要な美的感覚・素養を培うために造形美術に関する知識を習得する。 | 1前 | 24 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| 3 | ○ | | | 情報リテラシー | コンピュータの利用法を理解し必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集・開示に関する基本的知識・技能および態度を習得する | 1前 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 4 | ○ | | | コミュニケーション学 | 他者の意見を整理し、自分の意見を伝達するために基本的知識・技能および態度を習得する。 | 1前 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 5 | ○ | | | 関係法規 | 歯科技工士法を中心に医療関連の法律について習得する。 | 2前 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 6 | ○ | | | 歯科技工学概論 | 歯科技工士概念及び口腔の機能・疾患等の概要並びに歯科技工業務が円滑に実施出来るよう必要な運営管理及び作業環境等に関する知識を習得する。 | 1前 2後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 7 | ○ | | | 歯科理工学 | 歯科技工に用いる歯科材料や機械器具について教授するとともに、歯科鑄造に関する理論及び技能を教授することにより歯科理工を総合的に習得する。 | 1前 | 232 | 7 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | △ |
| 8 | ○ | | | 歯の解剖学 | 歯及び口腔について解剖学的見地から教授するとともに、歯の形態を彫塑する技術を習得する。 | 1通 | 160 | 5 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | △ |
| 9 | ○ | | | 顎口腔機能学 | 顎口腔系器官の機能について理解するとともに、咬合器の取扱いについて習得する。 | 2前 | 64 | 2 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | △ |
| 10 | ○ | | | 有床義歯技工学 | 有床義歯の製作に関する知識及び技術を習得する。 | 1通 2前 | 620 | 16 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 11 | ○ | | | 歯冠修復技工学 | 各種の歯冠修復物及び架工義歯の製作に関する知識及び技術を習得する。 | 1通 2前 | 620 | 16 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | △ |
| 12 | ○ | | | 矯正歯科技工学 | 歯科矯正の基礎的概念を理解し、一般的な歯科矯正装置の製作法を習得する。 | 1後 | 60 | 2 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | △ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|---------|---|----|-----|----|--------------|--|---|---|---|---|---|
| 13 | ○ | | 小児歯科技工学 | 小児歯科の基礎的概念を理解し、一般的に使用されている乳歯歯冠修復物及び咬合誘導装置等の製作技術を習得する。 | 2前 | 60 | 2 | △ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 14 | ○ | | 歯科技工実習 | 知識・技術を歯科臨床の場面に適用し、理論と実践を結び付けて理解出来る能力と技術力を習得する。 | 2通 | 620 | 15 | | | ○ | ○ | ○ | △ | ○ |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 14科目 | | | | 2580時間(73単位) | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|-----------|-------|--|
| 上の出席・科目試験における筆答試験及び実地試験の合格基準100点満点の60点以上 | 1 学年の学期区分 | 2期 | |
| | 1 学期の授業期間 | 22週 | |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。